

発光の時間分解測定	京大	神野 賢一	Na担持アルミナのNa K-edgeのXAFSと表面反応性	学芸大	長谷川貞夫
高導電性ポリアセチレンのUPS			固体表面に吸着した金属錯体の光化学反応	分子研	浮須 祐二
C ₆₀ 族アルカリ金属化合物の光電子分光	名大	神谷 幸司	放射光励起によるエッチング反応	豊橋技科大	大橋 治彦
カーボンクラスターの軟X線吸収スペクトルによる研究	東北大	高橋 隆	アンジュレータ光によるアルカリハライドのスパッタリング	分子研	鎌田 雅夫
超臨界流体の中のクラスター状態	東北大	田路 和幸			
	神戸大	中川 和道			

◁研究会報告▷

第9回PFシンポジウム報告

第9回PFシンポジウム実行委員長 石川 哲也 (東京大学工学部)

表記シンポジウムは、平成4年1月9日、10日の二日間、高エネルギー物理学研究所に於いて開催された。当初は平成3年11月に開催する予定で準備が進められてきたが、会場の都合で年初の多忙な時期に変更せざるを得なかったことをお詫びしたい。それにも拘らず、例年を上回る179件のポスター発表と260余名の参加登録があったことを実行委員一同深く感謝している。

この日程変更に伴い、当初PFニュースとフェイズを合わせて予定されていたプログラム発送等を独立に行わざる得なくなった。このために、事前に参加申込を頂いた方以外の方へのプログラム発送が行えなかったことは誠に残念であった。当日のプログラムは、記録の意味を込めてPFニュースに掲載される予定である。

ポスター件数が増大したこと、ポスターの内容が充実したことによって、1時間半では廻りきれないとの御指摘を多数の方から頂いた。また申込締切時点で用意可能なパネル数に迫る申込件数

があり、例年行われている電話による「追加募集」を行わなかったためにポスターを出しそびれた方々には深くお詫びしたい。

当日は、高良、佐々木、富家、田中名誉教授諸先生のお元氣な姿を拝見することができ、また現役当時と変わらぬ活発な議論を拝聴することができた。これは、若い世代の一層の奮起を促すものであった。

この規模の会議の日程を変更することは、実際に大変な作業であり、二度とないように関係者に要望するが、この大変な作業を例年の数倍の作業量でこなし、なんとか例年並の開催にこぎつけることに多大な貢献のあった実行委員諸氏(KEK-PF伊藤健二氏、宇佐美德子氏、渡辺信久氏、電総研 大柳宏之氏、NEC 秋本晃一氏)に感謝するとともに、岩崎施設長をはじめとするPFの方々、および菊田会長をはじめとするPF懇談会の方々の御援助にこの場を借りて感謝の意を表したい。